



## オオカマキリが皮を脱いでるぞ!!

モンシロチョウの育て方の学習を終え、また「頭・胸・腹」の体のつくりから、昆虫の間であるオオカマキリとトノサマバッタの飼育を始めました。

虫かごに土ごと草を入れて、しばらく様子を見てみると、オオカマキリがいつもと違うぶらさ下がり方をしていました。よく見ると、うす茶色の皮を腹の方までむいてる姿に出会えました。みんなを集めて観察しました。私自身も生まれて初めてオオカマキリの脱皮に遭遇しました。さらに、トノサマバッタの方も、抜け殻が2つ見つかりました。きれいに体の形のままで脱いでいました。そこで、“3アウトチェンジ”が起きたことをみんなと考えました。

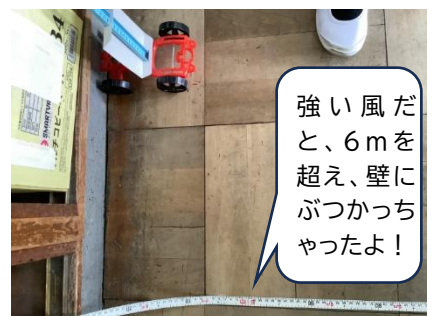
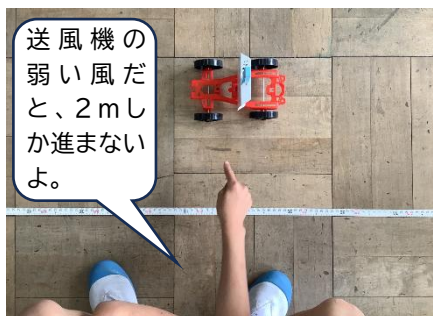
モンシロチョウは幼虫からサナギになって羽を広げ姿を変えて成虫になりました。オオカマキリやトノサマバッタは、初めから羽が生えているわけではありません。つまり、羽がまだ生えていない時期が幼虫というわけです。青虫にはならず、孵化してすぐに足が6本あることを調べ、同じ昆虫でも育て方が違うことに気づくことができました。オオカマキリやトノサマバッタは、脱皮をくり返しなが



し、羽を伸ばしながら成虫になるということがわかりました。

子どもたちが見つけたカマキリやバッタです。飼育しなければ気づかない、学べないことがあり、飼育学習の意義を見出せたと考えています。

- ①孵化したとき足が6本ある。 ②サナギにはならない昆虫もいる。 ③脱皮で体が大きく変わる。



### <風やゴムのはたらき>

子どもたちは楽しく車を走らせながら、風を弱めると机ぎりぎりに車を止められたことや、たくさん風を仰ぐとスピードが上がったことなどから、風の強さで動く距離が変わることに気づき、実験方法を考えました。

